令和５年２月

山梨ライトハウス

第95号

発行／社会福祉法人 山梨ライトハウス　〒400-0064 甲府市下飯田2-10-1
TEL/055-222-3502 FAX/055-233-0124 URL http://yamanashi-lighthouse.or.jp

情報文化センター　電話／055-222-3502
貸出・用具専用／055-223-1113
青い鳥ホーム　電話／055-242-8244
青い鳥成人寮　電話／055-224-5060
青い鳥支援センター　電話／055-267-7480
青い鳥老人ホーム　電話／0553-26-6631
青い鳥ケアホーム　電話／055-235-5566

山梨ライトハウスの理念は「視覚障害者の未来（あす）を照らす光の道標（みちしるべ）となること」です。

CONTENTS

巻頭言……1
白い杖愛護運動月間……2
生活体験文 最優秀賞受賞作品‥3
コロナ禍での各施設行事等‥4～6
青い鳥ホーム解体と完全移転‥7
お知らせ……8

寄り添って生きる

山梨ライトハウス
理事長　萩原　満治

ふっと懐かしさがこみ上げて来て、また会ってみたいと思う人が何人かいる。在宅ホスピスに取り組んでいる甲府市の内藤いづみ医師（六十六歳）も、その一人だ。

初めて出会ったのは三十年以上前になる。英国・グラスゴーという街でホスピス運動にかかわってきた内藤さんは、五年間の滞在を終えて一九九一年に帰国。県内各地で終末期医療を考える講演を精力的にこなしていた。英国の実情を詳しく報告してもらった連載『ホスピスへの道』（山梨日日新聞）は好評で、読者や医療現場の看護師から大きな反響が寄せられた。

当時は在宅医療のシステムがなく、がん患者の生活の質（ＱＯＬ）向上のためにモルヒネを使うことにも偏見が根強かった。「末期医療の現場は、いろいろな問題を含んでいます。そこがきちんとできるようになれば、ほかの医療にも波及していく」。彼女はひたすら終末期医療の道を開拓してきた。

内藤医師は、これまでに四千人を超える看取りの場に立ち会ってきたという。私は現場を離れてから久しく会っていなかったが、昨年、定期的に開催している学習会の講演をまとめた冊子をいただいた。その中で、ある老女のエピソードを紹介している。

肺がんが見つかったけれど、抗がん剤も一回も打たずに自宅で娘さんや孫に囲まれ安らかに暮らしていた彼女。何年かが過ぎた。痛みは出なくても、体のバランスがどこかで崩れると、がんが育ち始める。とうとう末期という時期に差し掛かる。「今日がお喋りできる最後だなってわかるときがあるんです」と内藤さん。死にゆく老女にこう尋ねた。

「今、どんな気持ち？」。死を認めたくない家族には、なかなか聞けない言葉だろう。

すると彼女は、息も絶え絶えに、答えた。「先生ね、いつかはこういう日が来ると思っていたけど、来ちゃったね」

昨日、今日とは思いたくないけど、いつかは来るその日。その最期に立ち会った内藤医師は、彼女のことばの中に、十分に生き切った満足感のようなものを感じ取ったのだろう。「助けてくれなんてことは一回も言わなかった」

日々の恐怖や不安から離れて、どれだけ穏やかに生を全うできるか。そこには、そっと寄り添う家族や医師の存在が欠かせない。

「新型コロナウイルスの感染拡大で、人と人とのふれあいは減りましたが、命のケアはリモートではできません」と内藤さん。

寄り添うことの大切さを、介護・支援の現場で働く私たちにも教えてくれている。

学習会の講演録

第68回白い杖愛護運動月間　令和4年11月1日~30日

白い杖福祉の集い

第68回白い杖愛護運動（山梨県・山梨県教育委員会・山梨ライトハウス主催）を11月に行いました。

例年、甲府駅などで実施していた「白い杖・盲導犬キャンペーン」は、今年度も新型コロナウイルス感染予防のため中止になりましたが、6日には「白い杖福祉の集い」を昨年度と同様、感染予防対策を行い、山梨県立盲学校体育館で開催しました。式典では、点訳・音訳奉仕者知事表彰、白い杖愛護作文や生活体験文受賞者の表彰が行われました。

山梨県障害福祉課長あいさつ

知事表彰受賞者

知事表彰受賞者代表あいさつ

愛護作文（小学校低学年の部）最優秀賞受賞者

愛護作文（中学校の部）最優秀賞受賞者

愛護作文（高等学校の部）最優秀賞受賞者

愛護作文（高等学校の部）優秀賞受賞者

生活体験文（児童・生徒の部）最優秀賞受賞者

生活体験文（一般の部）最優秀賞受賞者

愛護作文の講評

生活体験文の講評

会場の様子

目の不自由な人たちとの交流や共生をつづる「白い杖愛護作文」に、小中高等学校27校から408編、目の不自由な人たちが日常生活のことなどをつづる「生活体験文」に16編の応募がありました。

視覚障害になって歩んだ私の道

【児童生徒の部】　山梨県立盲学校　高等部二年　楠（くすのき）　光翔（あきと）

私は現在盲学校に通うレーベル遺伝性視神経症という難病を抱えた十七歳の高校二年生である。今でこそ盲学校に通っているものの、元々から視力が悪かったというわけではない。視力が悪くなる前は山梨県の工業高校に通い、将来はエンジニアになろうと夢見ていた。しかし、二年前の十月に視界の中に違和感を感じるようになった。部活のソフトテニスではラリー中に視界の中心にボールが来ると、ボールが一瞬消えてしまうようになった。視力の悪化が進んでいったある日、体育祭の最中に学年主任の先生に呼ばれ、「このまま工業にいたとしても卒業はさせてあげられるが、その先の就職やら、進学やらは面倒を見てあげることがかなり厳しい。」と告げられた。かなり厳しいという言葉の意味は自分でもうすうす気が付いていた。なぜなら、普段の機械を操ったりする授業などで自分だけ寸法がずれまくっていたり、目盛りを読むのが困難であったりとかなり限界を感じていたからである。そのようなことがあり、私は強制的に夢をあきらめざるを得ない状況になった。真っ先に頭によぎったのは、将来への不安だった。私はこれからどのように仕事をし、生活をしていけばよいのか。さらにその時の私は、学校の友達や地元の仲の良い友達に、自分の病気のことをなかなか言い出せずにいた。なぜなら、病気であることをさらけ出すのが怖かったからだ。さらに、言ってしまったら気を使わせてしまいそうで言えなかった。今思えば、その工業高校にいた我慢の一年半は、私の今まで生きてきた十七年間で間違いなく一番辛くきつい時間だった。

しかし、その一年半を通して私は一つの大きなことを学んだ。それは、一人で抱え込んでも何にもよいことなどないということだ。現在では、工業高校の友達や地元の友達には病気のことを話したのだが、いざ話してしまえば不安に思っていたことなど嘘のように楽になった。その時私は思った。「こんなにいい友達ばかりなのに、なぜもっと早く話さなかったのだろう。一人でなんて抱え込むんじゃなかった」と。このことから学んだことは、これから先、辛いことや悩み事は一人で抱え込まずに、信用できる友人などにすぐに相談していくことの重要性だ。

私はこの病気になりよい意味でも悪い意味でも人生を大きく変えられてしまった。今では、病気になる前よりも、人の辛さや痛みに共感できるようになったと思うし、以前の自分よりも人に対して優しい気持ちで接することができるようになり、人として成長できたと感じることができる。私はこの病気になれてよかったなどとは決して思うことはできない。しかし、私はこれから先の人生を、絶対に目のことを言い訳にして物事を投げ出したりしないように歩んでいこうと強く思う。

私の老後生活

【一般の部】　笛吹市　影山（かげやま）　笑美子（えみこ）

私が、青い鳥老人ホームに入所しましたのは、二〇〇六年の六月でした。ホームにお世話になりまして、既に十六年余りとなっています。ホームでの生活は、それまで自分で描いていた老後とは全く違うものとなりました。ホームに入所する以前は、どんなに充実した日々を過ごしている時でも、頭の片隅には、必ず将来への不安が、潜んでいました。しかし、ホームへの入所が許され、お世話になることが出来たおかげで、そうした長年抱いてきた不安は全く解消されました。この安心感は、何よりの喜びであり感謝でした。ホームのお一人お一人は、私にとりまして、大切な仲間であり、家族でもあります。食堂で皆さんと共に食事をする時などは、おいしい食事をいただきながら一人ではないことをしみじみ感じ喜びがこみ上げてきます。職員の方々のあたたかい言葉がけと見守りの内に、利用者の皆さんとの、たわいもない会話に笑いあっている穏やかな日々の生活は、私に大きな喜びを感じさせてくれます。

もうひとつ、丁寧に忍耐強くサポートをしてくださる方々のおかげで、ＩＴ機器が使用できるようになりましたことも、全く想像していなかった老後の生活です。私がパソコンを初めて使用したのは、二〇一三年でした。それまでは、ＩＴは自分には関係のないもの、若い人がするもの、できる人がするものと思っていて、ほとんど関心がありませんでした。ところが、スキャナーで文書を読み取り、それをパソコンで読ませ、私にも利用できるとお勧めいただきました。丁寧なサポートをいただきながら、少しずつ習得していき、難しいことはできませんが、メールをしたり、ホームページを開いたり、ネット放送を聞いたりなどの自分のしたいことが何とかできるようになり、そのことに喜びを覚えるようになりました。そして、それから数年たった頃から、パソコンで少し自信が持てたのか、スマートフォンへと関心が広がっていきました。二〇二〇年からは、スマートフォンも使い始めました。やはり、これもサポートをいただき、繰り返し繰り返し様々な指のジェスチャーを練習し、視覚障害者のための特別な操作方法を学習していきました。おかげで現在は、静岡県を中心として、数県の視覚障害者の皆さんで結成するグループに所属し、ＺｏｏｍやＬＩＮＥを使って、交流をしています。グループの皆さんとの勉強会やミーティングに参加して、色々な情報をいただく中で交流を深め、日曜日の午後には、有意義で楽しい時を過ごしています。ＩＴ機器を使用できるようになったことにより、世界がぐっと広がり、生活が豊かになったように感じています。

こうして充実した人生の最後のステージを過ごさせていただいていますのも、いつも寄り添っていてくださるホームの職員の方々、利用者の皆さん、そしてＩＴ機器を丁寧に忍耐強くサポートしてくださる方々がいらしてくださるからこそであり、たいへん感謝しております。これからの余生も、ホームの皆さんと共に、大切に明るく丁寧に過ごしていきたいと思っています。

コロナ禍での各施設行事等

情報文化センター

第五十二回鉄道弘済会・日本盲人福祉委員会朗読録音奉仕者感謝の集いに出席して

山梨青い鳥奉仕団音訳部　岡田　つたよ

私は、令和四年九月五日、東京のホテルメトロポリタンエドモンドでの表彰式に参加しました。

鉄道弘済会並びに日本盲人福祉委員会の両常務理事の御挨拶に始まり、選考経過報告、奉仕者録音図書の紹介となりました。

私が二十年以上前に音訳した瀬戸内寂聴の「いよよ華やぐ」が流されたその時は、今と声が余りに違い恥ずかしく思いましたが、他の受賞者も似たり寄ったりという感じでしょうか。

録音七人、校正三人、デイジー二人それぞれに鉄道弘済会から感謝状、記念品をいただきました。また日本盲人福祉委員会からは、クリスタルの花瓶をいただきました。

その後、写真撮影、会食となり、松花堂のお料理をスマホで撮っているのは私ぐらいでしたが、黙食でひたすら静かにいただきました。

私は、国際障害者年（一九八一年）に、当時ライトハウスの職員でママ友でもあった杉山さんに、他人様のお役に立てることだからおやりなさいといわれ、奉仕団員になりました。それからかれこれ四十年、私は音訳にはまってしまいました。

不器用故、大した成果もないままこのような賞をいただく僥倖に巡り会いました。

細く長くが私の性に合うのだと、一人合点しながら、許されるのならこれからも自分に出来ることをコツコツやっていこうと、心に誓いました。

感謝状

表彰式会場にて

青い鳥支援センター

今号では、「青い鳥支援センター」一階にある「居宅介護支援事業所　青い鳥」と「地域支援事業」について紹介します。

◆**「居宅介護支援事業所　青い鳥」**

在宅で介護サービスを利用したい高齢者の相談窓口となる場所です。ここにはケアマネジャーが在籍しており、高齢者の方々の在宅生活を支えるために次のような業務を行っています。

- 居宅サービス計画（ケアプラン）の作成
- モニタリング・ケアプランの見直し
- 利用者・家族からの相談業務
- 自治体やサービス提供事業所等との連絡・調整　など

◆**「地域支援事業」**

- 日中一時支援…障害者（児）を一時的に預かり、見守り等の支援を行うことにより、日中における活動の場を提供したり、その家族の負担軽減などを目的としたサービスです。
- 移動支援…障害者（児）の外出および移動をサポートするためのサービスです。

「自分らしく生きる」、そんな皆様の気持ちに寄り添いながら、更なるサービスの充実と向上を目指していけたらと思います。そして、「青い鳥支援センター」が皆様の笑顔のための一助となれば幸いです。

居宅介護支援事業所の様子

日中一時支援スペース

青い鳥老人ホーム

福祉祭とショッピング

続くコロナ禍に負けず、青い鳥老人ホームでは色々な行事を行っています。十一月には、「青い鳥老人ホーム福祉祭」と「訪問ショッピング」が開催されました。

福祉祭では、手作りの綿菓子を頬張り、余興は職員のど自慢大会です。本気の歌声からウケ狙いまで、歓声あり笑いありの余興となり、昼には大好きな握りずしを食べて楽しく一日を過ごしました。

訪問ショッピングは、外出自粛が続く中で貴重な買い物の機会です。今回は、冬物衣料を中心とした品ぞろえでしたが、小物やぬいぐるみなどもあり、見て触れて選ぶショッピングを楽しむことができました。

思わずにっこり

綿菓子おいしい

似合うかな？

色々な服があるね

青い鳥ケアホーム

食べるって楽しいな

毎年恒例のバーベキューパーティー。曇り空で寒い中、前庭では男性利用者が火起こしをし、張り切って準備です。焼いたものは、もろこし・ソーセージ・サツマイモ…、とても良い匂いが漂いました。リビングでは女性利用者が昔を思い出し、小麦粉をコロコロと丸めてお鍋の中へポイ。おすいとん作りです。出来上がりも味もバッチリ。全員で外で美味しく頂き、身体も心も温かくなりました。

十二月には、女性利用者を中心にお餅作りをしました。餅つきの機械を利用し、正月用ののし餅、豆餅、皆のリクエストで昼食用に大根おろし餅、あんころ草餅、きなこ餅を作りました。熱い餅を手に取り、丸め、時間との勝負です。出来立ての餅をほおばり、一年の思い出話で盛り上がりました。一緒に調理した豚汁も最高に美味しかったです。

クリスマスには皆さんのリクエストの宅配ピザで乾杯です。いくつになってもクリスマスのイベントは楽しみです。もちろん、ピザの後はケーキもしっかり食べました。

焦げないように、コロコロ

みんなですいとん作り

平らになったかな？

うさぎを抱っこ

今年はうさぎ年。ケアホーム第二で生活されている清水さんは最高年齢で年女です。そんな清水さん、サプライズで本物のうさぎに逢うことが出来ました。初めて抱いたと話す清水さんはうさぎを膝の上に乗せ、手で優しく撫でていました。いつも明るく優しい清水さん。今年の抱負は「色んな事に挑戦したい」です。

お互いにちょっと緊張！？

コロナ禍での各施設行事等

青い鳥成人寮

クリスマス会

利用者が毎年楽しみにしている年末の恒例行事、クリスマス会が行われました。感染症対策を行いながらの三度目のクリスマス会。男性棟、女性棟で場所を分けての開催となりました。男性棟は袋の中身当てゲームや紐の先についているプレゼントを引っ張るゲーム、女性棟は大型紙芝居やサンタのお手伝いゲームなど、それぞれ趣向を凝らしたレクを楽しみました。場所は離れていてもすぐそこ、お互いの笑い声が聞こえてくると、更に気分が盛り上がりました。

昼食のメニューは骨なしフライドチキンにポテト、チキンライスにスープとサラダ。皆さん美味しそうに食べていました。また、今年はケーキを事前に三種類から選んでもらい用意しました。サンタ、トナカイ、雪だるまにそれぞれデコレーションされた可愛いケーキを嬉しそうに食べていました。

そして、忘れてはならないクリスマスプレゼント。今年もサンタクロースが一人ひとりに手渡してくれると、利用者の笑顔と歓声が寮内にあふれました。

これは何かな？

ご飯もクリスマスメニュー

トナカイのケーキです

サンタがきた！

プレゼントをもらったよ！

福祉祭

今年度も新型コロナの感染防止に努めながら、成人寮だけでの福祉祭を開催しました。

午前はチームに分かれてクイズ大会を行い、皆さん一生懸命に考えていました。成人寮にまつわるクイズが出題されるとすぐに答えが出たり、難しい問題になるとチームで相談し合ったりと、笑顔を見せながら知恵を絞ってゲームに参加していました。クイズの後はお楽しみの抽選会。抽選番号を引いて番号を呼ばれると、景品の中身を確認しながら満足そうな様子で受け取っていました。

昼食はほうとうで、副菜のおはぎやなます、甘酒も楽しみながら美味しそうに食べていました。

午後はチームに分かれてミニ運動会を開催しました。尻圧測定や防災リレー、菓子食い競争で体を動かしました。「よーい、ドン！」の掛け声が聴こえると、懸命にゴールを目指していました。最後に全員で集合写真を撮り、皆さんとても良い笑顔で締めくくりました。

何が出るかな？

これに決めた！

割れるかな？

温まるなあ

お菓子をもらったよ

青い鳥ホーム解体と完全移転

甲府市塩部で60年以上、鍼・マッサージによる視覚障害者の就労に取り組んできた盲人ホーム青い鳥ホーム。平成28年に住まいは移して通所していましたが、この度、老朽化に伴う建物の解体工事が完了しました。同時に、今後は、かねてより分室として開業していた県立盲学校の真向かいにあるコーポラス佐野B1－1を拠点に事業を継続していきます。マッサージ以外にも、内職やガーゼストールの染め物作業、調理実習、手芸教室、３B体操などの活動に取り組んでいきます。

今でこそ障害者のグループホームはたくさんありますが、60年以上前に、甲府市中心の住宅街において施設ではなく共同生活をするということには、近隣住民や朝日地区のご理解があってこそだったと思います。しかも自治会のイベントや運動会に毎年お声掛けいただいたり歳末慰問でお越しいただいたりと、地域との交流は大変ありがたかったです。この場をお借りして感謝申し上げます。

利用者が点字で思い出を寄せてくれましたのでご紹介いたします。

Sさん

私は昭和57年に青い鳥ホームに入所しました。最初はちょっと緊張したけど段々慣れてきました。音楽教室が第2第4の水曜日の午後でI先生が色々な歌を教えてくださいました。とても楽しいひとときでした。塩部の建物は古くて住みにくい面もあったけど楽しいこともたくさんありました。朝日地区の社協で12月になると慰問に来ました。コロナ（が流行る）前には中に入って話をしましたがコロナ（が流行って）からは玄関でちょっと立ち話をして帰りました。これからも色々なことがあると思いますが健康な毎日を過ごしたいと思います。

Aさん

私は昭和51年の6月からホームにお世話になりました。ホームの中はあの急な階段が手すりがないのでびっくりしました。それを、少しずつ2階の廊下を広くしたり階段のところに手すりをつけてくれたりしてなんとか生活していました。私は2階に住んでいましたが夏は非常に暑く汗びっしょりになって寝ていました。冬はとても寒く水道が凍ってお湯が出なくなったりトイレまで凍って水が流れなくなり泣きたい思いをしました。そんな中で生活している内に2階の部屋の床がへこんだり1階の奥の部屋は住める状態ではなく、なにか不気味な感じになりました。大雪又は震災の大地震の時はよくつぶれなかったと思います。（大雪の時は）職員が（すぐ）来ることが出来なかったので冷凍食品、缶詰、サラダうどん、みそ汁などでみんなで楽しく食事をしたことが塩部の一番の思い出です。塩部に行かなくなって、もう塩部に行くことがないのかと思うとちょっぴりさみしいです。

Yさん

私が塩部の青い鳥ホームに入所したのは1979年、昭和54年の4月12日でした。その頃は何も分からなくて、とにかく家の中を覚えるのが先だと思い必死で家の中を歩き回ったものでした。25歳くらいの時には階段から落ちたこともありました。その当時はK先生とT先生が快く対応してくださってとても助かりました。先生がびっくりして「誰で？」と声をかけたので「はい、私です」と答えました。～中略～あとはマッサージの訓練に励んだり、手芸をしたり、ライトハウスでS先生と料理教室をしたり、第2第4の木曜日には夕方の6時半から社協センターでコーラスの教室がありました。～中略～あれから何日も経ちNさんもTさんもKさんも大体が他界してK先生も青い鳥ホームを辞めて更に時が経ちその塩部の青い鳥ホームも取り壊されるとのこと。なんだか寂しいような気がします。そんな今は責任者も代わり、青い鳥ホームも塩部から下飯田に移転して私とAさんとSさんとNさんは下飯田の青い鳥ケアホームに入所して楽しい毎日を過ごしています。これからも今まで以上に頑張って悔いのない人生を歩みたいと思います。

Nさん

私は、平成元年に青い鳥ホームに入り、そこからK治療院に勤めました。私がホームに入った時は、新しかったような気がします。だけどだんだん古くなり、雨がむる（＊甲州弁で漏れるの意）ようになりました。羽黒のK事業所にも通いました。月・金曜日に、H先生の治療訓練もありました。I先生に、月に2回来てもらいコーラスをしました。H先生とみんなにカレーを作ってあげたら、おいしいって言われました。日曜日の夕飯は、私が責任をもって買いに行きました。～中略～Tさんの手作りのホットケーキ、一人に大きな6個のいなりずしがおいしかったです。Sさんの宿直の夜、お茶会しました。私は、Tさんのお料理を手伝いました。私はTさんと一緒にいちやまに食品を買いに行きました。土曜日に半日三人が仕事に入っている時に電話の役目をしていました。～中略～青い鳥ホームの創立60周年記念に、ニュー芙蓉でみんなでコーラスで歌を歌いました。ホームの階段は手すりをつかむほどかなり急で、私は、下りる時、骨盤を打ったです。よく骨折しなかったなあと自分で感じました。110センチの雪の降った時～中略～肉うどんを作って食べたこともありました。～中略～理事長だったH先生は、よく私を下の名前で呼んでくれました。

外注作業

ガーゼストールの作業風景

完成したガーゼストール

３B体操

手芸教室

きれいな施術室でお待ちしております！

お知らせ

点訳・音訳奉仕員養成講習会が修了しました

今年度の点訳奉仕員の修了者は11名、音訳奉仕員の修了者は9名でした。

これから、それぞれ練習を積み重ねて実践に入ります。皆さん今後とも、図書製作へのご協力をよろしくお願いいたします。

点訳講習修了者と講師

音訳講習修了者と講師

新人職員紹介

（令和4年12月採用）

新しく採用になった職員です。宜しくお願いいたします！

①氏名
②所属
③職種
④好きな言葉、または一言

①笠井（かさい）　朋子（ともこ）
②青い鳥成人寮　③事務員
④初心を忘れず1日でも早く戦力になれるように頑張ります。

第25回山梨県障害者文化展へ出展

県内の障害者延べ1711人が個人やグループで制作した作品計1041点を出展。絵画・書道・手芸・陶芸・文芸など感性豊かな作品が展示されました。

入賞した青い鳥成人寮利用者の作品

ライトハウス川柳

山梨放送様から点字カレンダーのご寄贈

令和４年11月２２日、日本テレビ小鳩文化事業団製作のカレンダー「点字版」３００部が山梨放送ラジオ局次長清水様より山梨ライトハウス萩原理事長に送られました。

今回のテーマは「日本の名山」で、「富士山」や「蔵王山」などが掲載されています。

山梨放送ラジオ局次長清水様（右手前）
ラジオライトハウス担当水越アナウンサー（右奥）

「日本の名山」がテーマの
点字カレンダー

川柳　浅川 和多留 選

「題詠」（景気）

●ライトハウス川柳会

ウイルスに景気不景気左右され　岡部　恵子

見えぬ敵未だ消えずに仕事に響く　相沢　幸雄

木枯らしよ不景気風も吹き飛ばせ　萩原　満治

お年玉好不景気に左右され　埜村　和美

景気よく笛と太鼓に子ら笑顔　桑原　梅次

浮き沈み波乗り越えて今があり　本間りょう

●青い鳥老人ホーム川柳クラブ

景気よく渡してみたいお年玉　影山笑美子

景気よく世界の旅へ夢見てる　松木　鏡

世の中の景気回復いつ治る　佐野　英夫

不景気でサンタも辛いクリスマス　山本サカエ

◎編集長　安藤輝雄　○編集委員　柳瀬美樹、細川純子、坂倉誠、笹本稔、中嶌良美、河内裕子
※皆様からの情報をお待ちしております。